

別を懷いて出した。  
『どうぞ二階へ』  
彼等は請せられる儘に無言で二階へ上つた。  
『今船の中で云ふ君から聞いたが支廳長が死んだと云ふぢやないか』  
彼は眞つ先に二人にどうして以前の主人である支廳長の死を語り出した。  
『そうだ！君は何でもそれで内地を行ひた筈だ』  
『ウム、その歸りだと云つてこの船に乗つてゐたよ』  
二人の間に色々支廳長に關する話が續けられた。覺悟は兩人は今後の事を話しあつてから戸外へ出た。

卷之三

卷之三

卷之三

卷之三

○時四十分ニユース	時ニユース	七時二 五分講演（交響現象）
二時婦人講座（婦人）	時ニユース	音の問題）小熊虎之助
、東京市政調査會理	時ニユース	川長壽 音曲吹き寄
、池田宏△三時四十分時報、ニユース	時ニユース	聲色（歌舞引排優座談會）
象通報△四時二十分時報、ニユース	時ニユース	常磐津（伊賀越道中双平作切腹の段）
△五時四十五分職 介事項△六時（子	時ニユース	、及川梅子發表
時間）管絃樂、東京 オオケストラ	時ニユース	仙臺 JOK
三十分英語講座（大 り中継）中等科第六	時ニユース	、
二、全田忠誠	時ニユース	、

心算  
社  
新熟語  
△ 拙華微笑  
△ 心配され  
△ と人間  
△ 愛愛至上主義で  
△ 現金至上主義。  
△ 谷は全部を委せようと思つてゐるが、彼はまたも無言で谷の後を追つた。  
△ 谷は附近の下宿屋にあるが、Mと云ふ同僚を訪ねるのである。Mと谷との用談のあつた。Mと谷を當てて、谷は解り永いのに厭々した彼は獨り戻つて来たが谷は容易に出来なかつたので通り掛り戻る女の女に頼んで谷を呼んで背負つた。『獨小路へ行つて見よう』再びしても出て來た彼の耽溺癖である、彼の今日として斯んな不謹慎な事は云へぬ筈であるのに彼は谷を懲らしむつた。『今日は持つて來ないからよそう』谷の返事に、醉つてはゐたものの彼は少からず以前の谷と比べて懲らしめた場合の大陰唇廢止、太陽唇に改めこの日を以て明治六年一月一日とす(明治五)ハ天智天皇崩す。唐朔の文化を輸入し改良を斷行し中興の英主と稱せらる(即位十一年)ムホーヘン・リンデンの戰、大余翁の勇將モロー此地に墮國の大將ジョン大公ミ戰つて之を敗る(紀元一、七九九年)ハ釧路市品販段々午後〇時四十分ニニュース、氣象通報、告知事項、二時三十分經濟市況、三時四十分氣象通報、五時四十五分今晩の番組報告、八時三十分義太夫(御所櫻堀川夜討)奉慶上使の段、淨瑠璃漫香、氣象通報、番組報告、告知事項、八時三十分義太夫(御所櫻堀川夜討)奉慶上使の段、淨瑠璃漫香、

物價下落 ◇  
込む需要 薄漁を悲観する  
五) 内郷の不良青年爆  
發團平署に検舉され他方  
人を驚かす(昭和三)  
の滯納で ○ — ○  
る紹介所  
百三十七戸焼く(大正一)  
漁村。浮浪勞働  
内は何處  
く  
者群衆を恐れ  
平商生哀れ  
ア其の方が萬吉か  
ア其の方の支  
配下に越後新發田の諸口家  
の御浪人で中山安兵衛殿居  
武士若黨草履取りを召連れ  
頼む……『へエに出でな  
居るか』……『へえ家主萬吉  
は私でござります』……ハ  
内に家主の萬吉といふ者は  
居るが』……『へえ家主萬吉  
は私でござります』……ハ  
ア其の方が萬吉か』……  
酒を一升持つてくる……  
『よく持つて來た、肴はどう  
した』——『冗談じやあありませんぜ、いゝ加減にして置  
く事に何んな悪い事をして置  
られた事を穴藏屋萬吉に向  
安兵衛をいたわらぬに依つて召取つて入牢を仰せ付け  
下さる様申上げる』……『飛  
んだ事を仰らしやる、只で  
居られ只で食はれ其上牢へ  
など打込まれて堪まるもの  
ですか』——『居ると食ふのは當り前だ、毎日酒でも出  
て置いてねくなさい』  
『酒ばかりあつて肴がなく  
ちやア甘く飲めるけえケチ  
ア待つてお吳んなさ、以前  
郡代屋敷だぞ』——『へエ、  
郡代屋敷だぞ』……『此の町  
野郎だ、愚園ノ云ふと  
厭なら郡代屋敷へ』……マ  
のぢや、ない、スルト其の  
ア其の方が萬吉か』……  
武士若黨草履取りを召連れ  
頼む……『へエに出でな  
居るか』……『へえ家主萬吉  
は私でござります』……ハ  
内に家主の萬吉といふ者は  
居るが』……『へえ家主萬吉  
は私でござります』……ハ  
ア其の方が萬吉か』……

卷之三

門一 般科 内科

良品廉賣に勝る  
商略なし  
磐城セメント特約代

耳鼻咽喉科専門  
合津醫

The image shows the front cover of a Japanese book titled 'Genroku'. The title is written in large, stylized kanji characters '元禄' (Genroku) at the bottom right. Above the title, there is a portrait of a man in traditional Edo-period court dress, including a wide-brimmed hat and a patterned robe. He is holding a long sword (tachi) with both hands, pointing it downwards. The background of the cover features a repeating pattern of stylized flowers or leaves. On the left side of the cover, there is vertical text, likely the author's name 'Ryōgen' and the publisher's name 'Meijūsha'.

# 障子紙屏 いろく 取揃へ 大 しよう じ がみ どりそろ 平町土橋

確實敏捷は次の生命な

卷之三

福島縣總代理店  
阿部石炭商店  
平停車場前

ス。ト。ー。ブ。ハ  
フ。ク。ロ。ク。、ス。ト。ー。ブ。  
ヲ。御。選。定。下。さ。  
一、最モ安イ石炭デ最モ良ク燃エルストーアハ  
クロクノ右ニ出ヅルモノハアリマセン。  
二、石炭商ノ立場ヨリ各種ノストーアラ嚴密試  
ノ結果始メテ理想的フクロク。ストーアラ  
ニ出シマシタ。

御希臘ノ御方へカタログヲ持參シテ御説明  
上々ス可卒仰下命ノ呈ア

吉田眼科病院  
平町 紺屋町

マルソーラー會社元詠  
マルソーラージ 生葡萄酒  
優良にして安價賣行き飛ぶが如し  
平二 西村屋藥店

# 上田醫院

ルマン商店 入院随意(自炊の便あり)  
外科光線専門科  
平南町  
電話四八九番ヨヤク

紙 唐紙 壁紙  
販賣  
かみ  
からかみ  
かべかみ

